

武蔵野市立保育園のあり方検討有識者会議の設置について

1 経緯

- 本市は「武蔵野市公立保育園のあり方を考える委員会」（平成14～15年度）、「公立保育園改革評価委員会」（平成16～18年度）、「武蔵野市公立保育園の役割及び認可保育園の運営形態を考える委員会」（平成21年度）を設置し、市立保育園の役割等について議論を重ねてきた。
- 平成22年5月には「新武蔵野方式による公立保育園の設置・運営主体変更に関する基本方針」を策定し、平成23年度に2園（千川保育園、北町保育園）、25年度に3園（桜堤保育園、東保育園、境南第2保育園）の市立保育園を武蔵野市子ども協会へ移管した。
- その後、子ども・子育て支援新制度の開始（平成27年度）、幼児教育・保育の無償化の開始（令和元年度）、待機児童対策による認可保育所の急速な拡充など、本市の保育に関する環境が大きく変化する中、武蔵野市第六期長期計画、武蔵野市第5次子どもプランにおいて、市立保育園のあり方の検討が今後の取り組みとして位置付けられた。

<参考>

【武蔵野市第六期長期計画（令和2年度～11年度）】

「市立保育園については、市内の保育の状況や外部有識者など幅広い意見を踏まえて、その役割とあり方の検討を進める。」（64p）

【武蔵野市第5次子どもプラン（令和2年度～6年度）】

「市内の子ども・子育て支援関係施設の状況、市から移管した子ども協会立保育園に対する評価結果等を踏まえ、市立保育園の役割とあり方の検証を進めます。」（53p）

- これらを受け、令和元年度に「武蔵野市立保育園のあり方検討庁内委員会」を設置し、市立保育園を設置する意義、子ども協会立保育園の役割等について検討を行ったが、同委員会の報告書の中で、具体的な事業展開等に関して専門的で幅広い視野からのさらなる議論が必要として、今後の検討の進め方として外部有識者会議の設置が提言された。

2 会議の趣旨

庁内委員会における検討内容に関して、外部有識者により専門的かつ多角的な視点から今後の市立保育園のあり方について意見をいただく。

<今後議論すべき論点（武蔵野市立保育園のあり方検討庁内委員会報告書から）>

市全体の保育の質の維持・向上のための具体的施策展開

役割を達成するための市立保育園の配置

養育困難家庭の支援

医療的ケア児の受入可能な保育施設設置の可能性

課題解決に向けた施策提案機会の確保（市職員保育士の活躍の場の拡充）

災害時における市立保育園、協会立保育園、その他の認可保育園の役割

3 委員 *敬称略

榎田 二三子（武蔵野大学教育学部幼児教育学科教授・武蔵野市保育料審議会委員長）
西巻 民一（西久保保育園園長・武蔵野市保育料審議会委員）
新保 庄三（一般社団法人日本保育者支援協会理事長・武蔵野市保育総合アドバイザー）
富樫 京子（臨床発達心理士・武蔵野市保育相談員）
鶴川 正樹（公認会計士・武蔵野市公会計制度研究専門委員）
勝又 隆二（武蔵野市子ども家庭部長）

4 スケジュール

時期	内容
6月29日（月）	第1回会議（有識者会議の設置について、あり方検討庁内委員会報告書について等）
7月30日（木）	第2回会議（今後のあり方についての議論）
8月24日（月）	第3回会議（中間報告書とりまとめ）
9月9日（水）	市議会文教委員会にて中間報告書の内容を報告
9月中旬～下旬	パブリックコメントの実施
10月19日（月）	第4回会議（パブリックコメントの確認、最終報告書とりまとめ）
11月上旬	最終報告書の公表